

### 令和5年度 県立水海道第一高等学校 自己評価表

<p><b>目指す学校像</b></p>	<p>学校生活全体を通して、さまざまな視点から生徒の好き、得意、やりたい、なりたいを引き起こし、そこから生まれる主体的な学びを支援、正解のない未来に人生を主体的に切り拓ける人間形成に資する。</p>		
<p>昨年度の成果と課題</p>	<p>重点項目</p>	<p>重点目標</p>	<p>達成状況</p>
<p>○各学年においてGTZや偏差値の向上が見られるものの、学習時間の伸びは鈍い。主体的に学習に向かうような仕掛けや授業展開などに工夫が必要である。</p> <p>○各教科学年での課外や時期ごとに配された進路行事により、進路実現率は高い。従来の学習指導に加えて、多様な進路や入試スタイルに対応できる能力を身に付ける必要がある。</p> <p>○探究学習「」について、キャリア探究部を中心に持続可能で発展的な時間となるよう実践していく。</p> <p>○年間を通した面談やSCによる面談など、生徒理解、生徒支援を進めている。「海高ブランド」意識の醸成により、自ら律することができる生徒育成を目指したい。</p> <p>○学校行事や部活動において生徒主体の運営はほぼ達成できている。生徒運営へのサポートとリーダーシップ育成を援助し、さらに深淵とした行事になるようにしたい。</p> <p>○本校教育の理解促進や生徒募集に寄与できるよう、外部連携事業の内容公開や、PVのリニューアルを含め魅力度向上を目指したい。</p> <p>○主体的な学びを引き出す日々の授業について、研修を含め組織的に改善していきたい。</p> <p>○分掌内での業務の分散により平準化を進め、働き方改革を進める必要がある。</p>	<p><b>学習指導 (教育課程)</b></p>	<p>① 生徒の主体性を育むことを第一に、学校生活全体で機会の創出を行う。</p> <p>② ICT活用やグループワーク等、生徒の主体的な学びにつながる創意工夫を行い、結果、生徒が主人公である授業を常態とする。</p> <p>③ 新設する教育ベンチャー5社と共同開発した海高式探究プログラムの整備や、復活する語学研修旅行の拡充による横断的な学びを進める。</p>	<p>A</p>
	<p><b>進路指導 キャリア教育</b></p>	<p>④ 生徒が主体的に人生を切り拓くために最適な進路指導を生徒との共同プロジェクトとして行う。</p> <p>⑤ 偏差値、国公立など従来の物差しに限らず、多様な情報と社会的見地を常に更新し、総合的な進路指導を行う。</p> <p>⑥ 大学受験のみならずその後の社会人としての生き方をイメージできるキャリア教育を行う。</p>	<p>A</p>
	<p><b>生徒指導</b></p>	<p>⑦ 海高生としてふさわしい身だしなみ、言動を自ら考え、実行を促す生徒指導を行う。</p>	<p>B</p>
	<p><b>特別活動 キャリア・パスポートの活用</b></p>	<p>⑧ 生徒主体の、特に観る人の存在を意識した行事運営をサポートする。</p> <p>⑨ Classiなどのコミュニケーションツールを活用し、生徒のキャリア形成をサポートする。</p>	<p>A</p>
	<p><b>教育環境整備</b></p>	<p>⑩ 教室のデザイン変更試行とその分析をして、有効な方向性と活用法を議論する。</p>	<p>B</p>
	<p><b>地域との連携 (保護者、地域住民等)</b></p>	<p>⑪ 常総市アグリサイエンスバレーと探究プログラム、常総市と本田技研によるAI街づくり協定と探究活動による連携を強化する。</p> <p>⑫ 文化部による地域の伝統芸能取材、伝統行事の定期戦実施、ボランティア活動で地域との連携を強化する。</p>	<p>A</p>
	<p><b>保健管理 安全管理</b></p>	<p>⑬ スクールカウンセラーの配置、いじめ対策委員会の定期的な開催など常に情報を把握することで生徒理解と問題の早期発見解決に努める。</p> <p>⑭ 防災訓練、交通安全指導など各種講習の実施による生徒の危機管理意識づくりと、危機管理マニュアルの遵守と見直しにより学校安全を確保する。</p>	<p>A</p>
	<p><b>研修 (資質向上の取組)</b></p>	<p>⑮ トップティーチャー模擬授業、コーチング研修、ダイバーシティ研修などオリジナルで必要なものをハイレベルに提供する。</p> <p>⑯ 先進校視察もより深い視察が可能なプログラムを先方と調整して行う。</p>	<p>B</p>
	<p><b>情報提供 (広報、生徒募集)</b></p>	<p>⑰ 学校説明会、学校公開日に加え、塾などへの学校説明の定期的実施、ハイクオリティなPVの制作など広報を充実する。</p> <p>⑱ 課外イベントの開催、総合的な探究の時間の話題性をもとに広くマスメディアにもアプローチする。</p>	<p>A</p>
	<p><b>コンプライアンス 働き方改革</b></p>	<p>⑲ コンプライアンス違反をゼロにする。</p> <p>⑳ 臨機応変な働き方の導入により教職員の負担を軽減する。</p>	<p>B</p>
	<p><b>授業改善について</b></p>	<p>㉑ 第2回授業満足度調査において第1回のスコア+5%の達成を目指す。</p>	<p>B</p>

三つの方針

<p><b>「三つの方針」 (スクール・ポリシー)</b></p>	<p>「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)</p>	<p>正解のない未来に人生を主体的に切り拓ける人間形成</p>
	<p>「学びの方針」 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>単位制の授業はじめ、学校生活全体で、さまざまな視点から生徒の好き、得意、やりたい、なりたいを引き起こし、生徒の興味関心を主体的な深い学びに導く</p>
	<p>「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>好奇心旺盛で、自分で考え、課題を発見し、解決のために多様な人々と協力しあえる生徒</p>

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	国語	国語を適切に理解し、表現する能力を育成する授業を実践する。	観点別学習状況評価を充実させ、学習意欲と確かな学力の向上を図る。 ①②	B	B	・観点別の成績評価方法の見直し ・「書くこと」領域の充実 ・小テスト、授業、課題、考査、模試等の目的や意義、位置づけ、関連性を生徒に共有し意識付けする
			ICT機器の使用や協働学習の実施など授業形態を工夫し、主体的な学習を促す。 ①②④	A		
			要約等の言語活動を通じて、文章構成を意識して文章を読解する力を養う。 ①②	B		
			問題演習を充実させ、文法や単語の知識を活用し文章を読み味わう力を養う。 ①②	B		
	地歴公民	主体的・対話的で深い学びを実践し、現在の活動内容の深化を図る。	生徒が授業を通して知識を整理し、考え方を深めることができるよう、積極的にグループワークなどの対話的な活動やリフレクションを導入するとともに、ICT機器を活用した授業を展開する。 ①②④	B	B	・ICT機器のより効果的な活用方法を教科全体で研究・共有する。 ・今年度実施したグループワーク等の活動をより充実させ知識・理解の深化を図る。
			授業等を通して各事象の基礎的知識を身に付けさせるとともに、主体的かつ論理的に自らの思考を表現することができる力の育成を図る。 ①②③④	A		
	数学	基礎力の向上に努める。  上位層の育成を図る。	習熟度別指導やグループ学習により、学習意欲を喚起し、基礎力の養成を徹底する。 ①②③	A	B	・習熟度別指導の方法。 ・上位層の更なる育成。(難関大に合格する学力をつける。)
			教科内で教材、指導法等について研究する。年間の指導計画に基づいて、週末課題や小テストを実施し、基礎力の定着と主体的な学びの育成を図る。大学入試共通テストを意識した授業展開を取り入れる。 ①②③④	A		
	理科	基礎力の定着を図り、主体的な活動を取り入れた授業を展開する。	学習内容が関連して理解できるよう、わかりやすい授業を構成して実施する。さらに、小テストやレポート等を課し、普段の授業の理解度を確認する。 ①③	A	A	・課題解決に向けて生徒各々が予想を立て、それに基づいた実験方法を選択する授業づくり。 ・入試問題と授業の関連付け。
			演示や考察を含めた実験、ICTの活用及びアクティブラーニングなどを導入し、生徒を主体とした授業を展開する。 ①②④	A		
	英語	学力向上につながる授業・課題・課外を工夫するとともに、基礎力の定着・応用力の育成を図る。	ICTを活用し、アクティブラーニングとともに、自学自習においても、生徒が主体的に学習に取り組む姿勢を涵養する。 ①②③	B	B	・ICTを使って英語の様々な力を育成するスキルをさらに磨く ・中学・高校のクロス授業の機会を設けられると相互に教育効果がある ・外部試験(英検など)への指導の工夫、仕組み作りを全体で考えていく必要がある
			互いの授業を積極的に参観し、4技能強化を図るアウトプット活動など生徒の深い学びにつながる授業研究に取り組む。 ③⑤⑬⑲	A		
			模試をはじめ、英検など外部検定試験に向けて指導体制を整え、成果が得られるようにする。 ④⑲	B		
	保健体育	心身の健康の保持増進に努め、他者と協働してよりよく生きる力を養う 主体的に運動やスポーツに関わる(する・みる・支える)心情を育成する。 運動嫌いの生徒でも「分かる・できる」を感じる授業を展開する。	ICTおよびジグソー法を活用したグループワークの機会を増やし、主体的で協働的な学習機会を確保する。 ①②④	A	B	・保健や体育探求の授業においては、生徒主体の活動を計画的に行うことができたが、体育においては不十分であったため計画的に取り組んでいきたい。
			調べ学習・学び合いを通して、スポーツには多様な関わり方や魅力があることに気づかせる。 ①②④	B		
教具や教材を工夫したスモールステップ学習や、ICT活用による技術およびゲーム分析を取り入れる。 ①②			B			
芸術	芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、生涯にわたり芸術を愛好する心情を養う。	【主体的な学びの視点】 芸術によって喚起されるイメージや感情を自覚させることを促し、芸術を学ぶ意味や価値を自覚するとともに、芸術を生活や社会に生かそうとする態度を育成する。 【対話的な学びの視点】 一人一人が「芸術的な見方・考え方」を働かせて、芸術表現をしたり鑑賞したりする過程において、互いに気付いたことや感じたことなどについて言葉や作品で伝え合い、芸術的な特徴について共有したり、感じ取ったことに共感したりする活動を促す。 【深い学びの視点】 生徒が芸術と出会う場面を大切に、一人一人が「芸術的な見方・考え方」を働かせて、芸術と主体的に関わることができるようにすることを促す。	①②④	A	A	・主体的・対話的・深い学びをなお一層充実したものにし、生涯にわたり芸術を愛好する心情を養っていく。
家庭	主体的・対話的学習を通して、これからの時代を生きる生徒が希望をもち、たくましく、よりよく生きる力を身に付ける。	実験・実習やICTを活用しながら、生活に必要な知識、技術を身に付け、自立し、異なる世代の人たちと共生する意識を養う。 ①②⑥⑲	A	B	・学習内容をより自分事として取り組めるように内容改善を図る。	
		生活上での様々な課題を主体的に理解させ、持続可能な社会をつくる一員としての意識を高める。 ①②⑥⑲	B			
情報	情報社会に主体的に参画するための資質・能力を身につける。	タブレット端末を積極的に利用した授業を実施し、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得させる。具体的な事例をもとにメディアリテラシーに関する指導を行い、情報社会に主体的に参画する態度を養う。 ①②⑤⑲	B	B	・グループワークを積極的に取り入れ主体性育成をはかる ・共通テストを見据えたプログラミング指導を構築する	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教務	授業の充実による学力向上	生徒の「主体的、対話的で深い学び」が可能になるよう授業の工夫や指導体制の改善を行い、『Findアクティブラーナー』の利用促進や「校内相互授業参観」週間の充実など、研修体制を整える。また、校外で行われる研修会へも積極的に参加するように促し、授業改善へとつなげる。 ①②③	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き授業改善に努め、ICT機器の活用を含めた校内外での研修等の充実をめざす。</li> <li>中高一貫校の特性を活かした教育課程の編成を引き続き進める。</li> <li>長期的な視点から面談場所やカウンセリングルームの設置について検討する。</li> <li>学校説明会等対面での広報活動とともに、ホームページ等による広報活動を充実させる。</li> <li>液晶モニタやGoogle各サービスの活用を進める。</li> </ul>
	適切な教育課程の編成	学習指導要領の目的に沿った教育課程を編成する。附属中学校から高等学校へつながる見とおしを立てるため、積極的に義務教育諸学校の情報を収集し、情報交換に努める。魅力ある学校づくりを目指して、各教科や分掌との連携を今まで以上に図る。 ①	A		
	生徒個別面談の充実	面談場所やカウンセリングルームの整備や業務の効率化を推進し、生徒との面談機会を十分確保できるように支援する。 ⑬	B		
	広報活動の充実	学校内外で実施する「学校説明会」の場を利用し、中学生・保護者及び地域住民の本校への興味・関心を高める。管理職や部長職以外の教員の小中学校・塾訪問を推進する。ホームページを中心に、様々なツールを用いて本校の教育目標や活動について積極的な広報に努める。 ⑰	A		
	校内環境の整備	校内に設置した液晶モニタを通じて個別最適化された情報提供を実現する。Google Workspace for Educationの活用を促進し、業務の効率化やリモート授業等への対応を強化する。 ①②⑳	A		
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	海高生としてのあるべき行動指針「海高スタンダード」の醸成を図る。 ⑦	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全教室では実際の事故再現の場を視覚的に体験することができ、交通安全意識の向上に効果があったので継続していきたい。</li> <li>学校全体で学んでおきたい知識やスキルを集会等で実施していけると良い。</li> <li>服装に関する事柄など、生徒と教員が検討する場の設定があると良い</li> </ul>
	マナーの向上(交通・挨拶等)	地域と連携したマナーアップ運動や交通安全運動に生徒が主体的に参加し、交通ルールの遵守やマナーの向上に努める。 ⑦	B		
		生徒が主体の挨拶運動などを通じて、学校の活性化やコミュニケーションの充実を図る。 ⑦	A		
		スマートフォンの使い方やSNSのトラブルについて、生徒同士が考える場を創出し、モラルの向上を図る。 ⑦	B		
進路指導	キャリア教育の推進と学力向上	キャリア探究部と連携し進路関係行事を実施し進路意識を高める。 ④⑥	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な進路行事を、対面とオンラインを併用して実施することができた。事後指導の方法についてはさらに研究し、改善していく必要がある。</li> <li>classiの学習時間記録や紙ベースの記録表などを利用して負担なく継続できる方法を検討する。</li> <li>新課程入試に対応するためにも、進路指導に関する情報共有の機会を数多くつくる。</li> </ul>
		自主学習時間を記録することで自身の学習量を把握させるとともに、担任・教科担当者による意識付けを継続して行うことで、学習時間の確保・増加を促す。 ①④	B		
	生徒が志望する大学の合格率向上	課外授業(平常・土曜・長期休業中)の充実、および模擬試験・検定試験の有効活用を通して、大学入試レベルに対応できる学力を養成する。 ①	A		
		現在の入試制度について情報を収集・整理し、生徒・保護者・教員間で共有を図る。また、生徒の志望する大学に合格できる進路指導実現に向け、1年次より進路検討会や学力分析会などを実施し、3年間を見据えた進路指導を行う。 ⑤	B		
特活指導	生徒会・委員会活動の充実	学校行事に対し、生徒会の主体的な活動を促進し、生徒が自ら考え、計画立案、運営ができるようにしていく。 ⑧	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会や各種実行委員会は主体的な活動推進ができたが、コロナによってボランティア活動などの地域貢献が上手く機能せずに来年度の課題となる</li> </ul>
		各種委員会では、学校行事の企画、運営に積極的に関わられる活動を行う。 ⑧	A		
	ボランティア活動をととした社会参画	ボランティア活動を通して、他校や、地域の人々との交流を図り、地域の社会づくりに参画しながら、地域貢献を目指す。 ⑨⑫	B		
	キャリアパスポートの活用	キャリアパスポートを積極的に活用し、キャリアプランニング能力を高める。 ⑨	B		

保健厚生	生徒の健康保持及び増進	熱中症や食中毒及びインフルエンザ等の感染症の予防対策を推進する。	⑩⑭	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的に適切な感染症予防や適切な傷病者の対する処置を継続する。</li> <li>・日常の清掃活動に加え、各種行事を機会として今年度同様に校内美化に取り組む</li> <li>・日本学生支援機構申込事務及び事後指導を円滑に実施する。</li> <li>・自販機トラブルや業者によるごみの回収問題について、事務担当者の協力を得て適切に対応する。</li> <li>・思い悩む生徒は多くカウンセリングをする機会が多い。生徒が落ち着くケースが多いため、問題点が多いものの、担任の積極的な判断によりカウンセリングを受けさせたい。</li> </ul>
		保健室来室者の現状を把握し、保護者・関係職員と連携し、健康回復を目指す。	⑬	A		
		防火防災訓練を実施し、防災意識の向上を図る。	⑭	A		
	教育環境の美化	清掃の徹底とごみの分別などの環境美化活動を推進する。	⑩	A		
		空調機器の健康的かつ効率的な運用を図る。	⑩	B		
	生徒厚生の実践	各種奨学金の周知及び申請事務等を迅速に行う。	⑤⑥	A		
		パン・お結び販売・自動販売機等の運営を円滑に行う。	⑩⑪	B		
	メンタルヘルスケアの実践	スクールカウンセリングを定期的実施し(年30回以上)、生徒及び保護者の精神的支援に努める。	⑬	B		
カウンセリング前後に関係者との連絡協議を行い、必要に応じて外部機関との連携を図る。		⑬	A			
特別支援体制の実践	学校生活上、特別な配慮を必要とする生徒に適切な支援を行う。	⑬⑮	B			
	学校HPやSC通信を活用して、特別な配慮を要する生徒への理解と周知を図る。	⑬⑲	A			
渉外	PTA活動の活性化による会員の連携構築と教育活動の支援	本部役員を中心に会員全体が協力し充実したPTA活動の実施に努め、会員相互の連携をもって学校を支え、生徒の主体的な活動や進路実現を支援する。	①⑤⑥⑧	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA支部の廃止の伴い本部役員や広報委員の選出方法を見直し、さらなるPTA活動の活性化と教育活動の支援に努める。</li> <li>・主な生徒会行事の写真を保護者と共有することにより、学校への意識を高め、地域との連携や海高の広報活動に寄与する。</li> </ul>
	各行事の実践と地域へのアピール	各行事等における保護者への積極的な呼びかけやHPなどを活用した広報活動により、保護者の学校への意識を高めるとともに、地域との連携や海高の広報活動に寄与する。	①⑱	B		
図書	図書環境の充実を図る	常時開放・常時閲覧を推進する。広報活動を充実させる(Egg・Webサービスを利用した蔵書検索の有効性、購入希望図書のリクエスト方法、新着図書・おすすめ本をデジタルサイネージを利用)。調べ学習(探究活動)の支援を進める。読書環境の整備をすすめる(図書館及びセンターホールの閲覧図書の充実)。委員会活動の充実を図る(ビブリオバトル、読み聞かせの実施)。	①②④	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境作りを進める。</li> <li>・探求や入試(総合型選抜)に向け、資料作成のための蔵書の充実や新聞雑誌等の参考資料の充実を図る。</li> <li>・Eggの利用について知らない生徒もいるため、生徒向けの広報を行う。</li> <li>・各学年から図書部担当の先生を配置することで意思の共有を確保する。</li> </ul>
キャリア探究	探究活動の実践	総合的な探究の時間における海高式探究プログラムにおいて、年次や教育ベンチャー企業5社と連携することで生徒の深い学びへとつなげる。また、先進的なツールを活用しながら生徒の主体的な取り組みを促す。	①②③⑪⑱⑳	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海高式探究プログラムについて、各企業と連携を取りながら充実したプログラムを展開でき、成果として得られた文部科学省および経済産業省のキャリア教育推進連携表彰最優秀賞への選出を糧に一層の充実を図る。</li> <li>・高校3年次や附属中学生探究との連携で不十分であった部分を改善する。</li> <li>・毎週実施した部会に基づき、各行事を滞りなく実施することができたが、改善の余地は大いにあるため、次年度</li> </ul>
		常総市や本田技研、海高クリエイティブスクールにおける各講師など探究活動における外部との連携を強化し、キャリア教育の充実を図る。	①⑥⑪	B		
	各行事の実践	年次や進路指導部と連携し、セブ島研修、プリティッシュヒルズ語学研修、企業大学見学、大学出前授業、キャリアガイダンスなどの進路関係行事を実施する。また事前・事後指導の充実を図り、進路意識を高める。	④⑤⑥	B		

第1年次	基本的な生活習慣の確立	学校生活の規律を徹底し、規則正しい生活が送れるようにする。	⑦	A	A	・スマートフォンの使用場面 ・個人面談の時間確保
		個人面談等を通して生徒の生活状況を把握し、個に応じた生活指導を行う。	⑦⑬	A		
	基礎学力の向上と学習意欲の向上	日々の授業を大切にす姿勢の徹底を図るとともに、創意工夫のある授業により、主体的に学ぶ姿勢を養い、学力の向上を図る。	①②⑫	B	B	・進路明確化による主体性と学習意欲向上 ・各教科での上位層育成の機会 ・家庭学習時間増(1年次より増)
		探求プログラムやclassiなどを通して将来像を明確にし、その実現に向けて学習意欲の喚起を図る。	①③⑥⑨	B		
		学習意欲や進路意識の高い生徒に向けた集会や学習会を実施し、学力上位層の育成を図る。	①④	B		
		適切な予習課題を設定し、予習復習の大切さを認識させ、家庭学習時間の確保を図る。	①	A		
自己理解の深化と将来像の明確化	進路・キャリア指導の中で、自己理解の深化を図り、主体的に人生設計を構築する。	④～⑨	B	B	・進路情報の提供頻度 ・限られた時間の中での進路学習の時間の確保	
	総合的な探究の時間やLHRを計画的に進め、将来の進路実現に向けて考える機会を数多くつくる。	④～⑨	B			
第2年次	個に応じた進路指導の徹底	生徒が主体的に人生を切り拓くために、面談などを通して進路希望を把握するとともに、個に応じた進路指導を展開する。	④⑤	A	B	・面談および様々な進路指導を通じ、大多数の生徒は進路希望を固めてきた。未決定の生徒(約5%)の支援を継続する。 ・課外・補習授業の継続実施及び、課外参加率の増加を目指す。 ・総合的な探究の時間によって身につけた知識や資質を進路実現に生か
		学力に応じた課外授業や補習授業を展開することで、生徒が最適な進路選択ができるよう手助けをする。	④⑤⑥	B		
		総合的な探究の時間や多様な学びの機会を通じて、生徒が興味関心ある学問分野を見いだせるよう手助けをする。	①③④	B		
	学習スタイルの深化	学習習慣を確立させるため、予習・授業・復習のサイクルを徹底させる。	①②③	B	A	・学習習慣をより強固にするために、デジタル媒体の適切な使用、スキマ時間の有効な活用を意識させる。 ・学習において、強制と非強制(主体性)のバランスを保ちつつ、より生徒が自ら取り組む集団となるような方策を実行していく。
		生徒が自ら学びに向かうような学習指導を行い、学力向上と学習意欲高揚を図る。	①②③	A		
		生徒が主体的に学習に取り組めるよう、適切な課題や小テストを設定する。	①②③	A		
	自律ある学校生活の育成	2年次として後輩の規範となるべく自覚を促し、学校行事やHR・生徒会・各種委員会活動に主体的に参加できるようにする。	⑦⑧	A	A	・指示が行き届きルールが遵守できる集団であり、落ち着いた雰囲気醸成されている。学校行事や活動にも昨年度に比べて主体的に参加できていたので、その継続と生徒がより活躍できる場を提供していく。
	第3年次	自己実現を目指した進路指導の徹底	個人面談を通して、生徒個々が抱えている課題を把握しながら、自己実現を目指した指導を展開する。	④⑦	A	A
学習状況を把握し、計画的・主体的な学習スタイルの確立を目指す。			①④	A		
生徒それぞれの学力を把握し、それぞれの層にあった課外や個別指導、進路行事を効果的に行い、学力の向上を図る。			②④⑫	B		
教員間での情報の共有に努め、目標を合わせる。志望校分析会を行い、年次全体で生徒を見ていく姿勢で対応する。			⑤	A		
保護者への進路情報の提供を密に行い、進路希望実現に向け、連携を深める。		④⑨	B			
主体的で規律ある学校生活の確立		最終年次としての誇りと責任感を自覚し、学校行事への主体的な参加やHR活動、部活動の充実を図る。	⑧	A	A	・クラス担任の綿密な面談と年次職員の声掛けにより、生活リズムを崩す生徒は少なかった。次年度も、悩みを抱える生徒への早めの声掛けが必要である。
	生活習慣の見直しを常に考えさせ、受験生であるからこそその規律ある生活リズムの大切さを伝えていく。	⑥⑦	A			
	面談や情報交換から、生徒の問題行動や悩みなどの早期発見を心掛け、関係各部と連携し解決を図る。	⑥⑬	A			

※評価基準 A:十分達成できた(達成度80%以上) B:概ね達成できた(達成度60~79%) C:やや不十分(達成度40~59%) D:全く不十分(達成度39%以下)